

# かゆみが血液透析患者のQOLに与える影響の検討

～SF-36v2を使用して～

医療法人社団スマイル クレア焼山クリニック

○藤井恵子、永谷美子、桐林慶

# はじめに

血液透析患者の合併症は多種多様であり、様々な症状が出現する。

その中でも透析皮膚掻痒症は、患者のQOL維持、向上の妨げとなる因子であり、程度の差はあれ50～90%の透析患者に認められる重要な合併症である。

# 目的

---

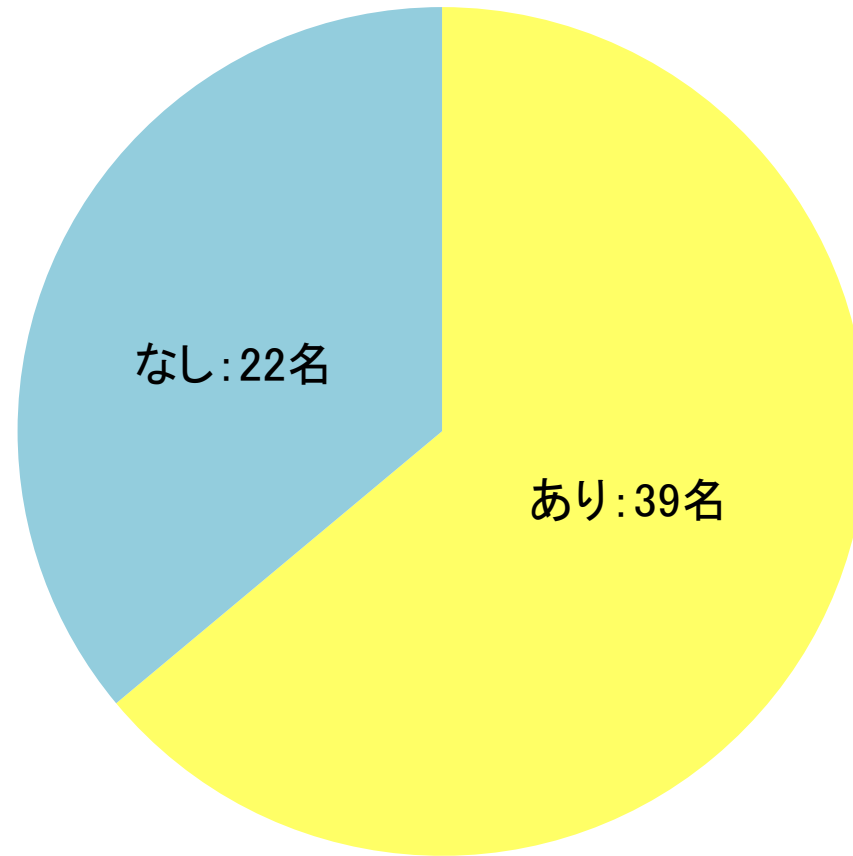
血液透析患者のかゆみとQOLの関連性を  
知るため、各種臨床データとの検討を行っ  
たので報告する。

# 対象・方法

---

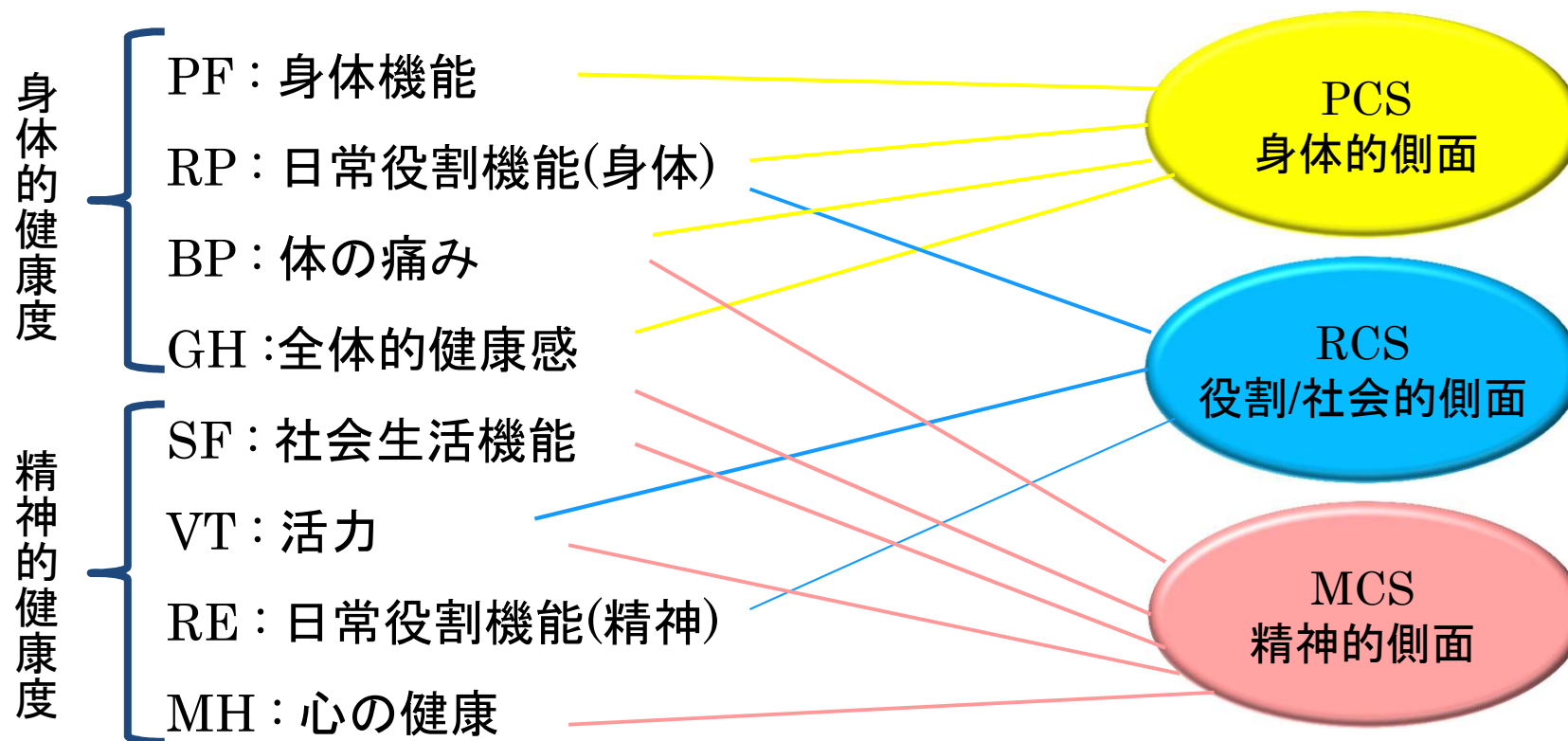
- 維持血液透析患者：61名（男/女：37/24）
- 年齢：67.9±10.2歳
- 透析歴：7.3±4.7年
  
- I.C及び個人が特定されないための倫理的配慮のもと、SF-36v2の調査及びかゆみに関するアンケートを行い、かゆみのあり、なしの2群間における各種臨床データとの関連性を含めた検討を行った。

# 当院血液透析患者のかゆみの有無

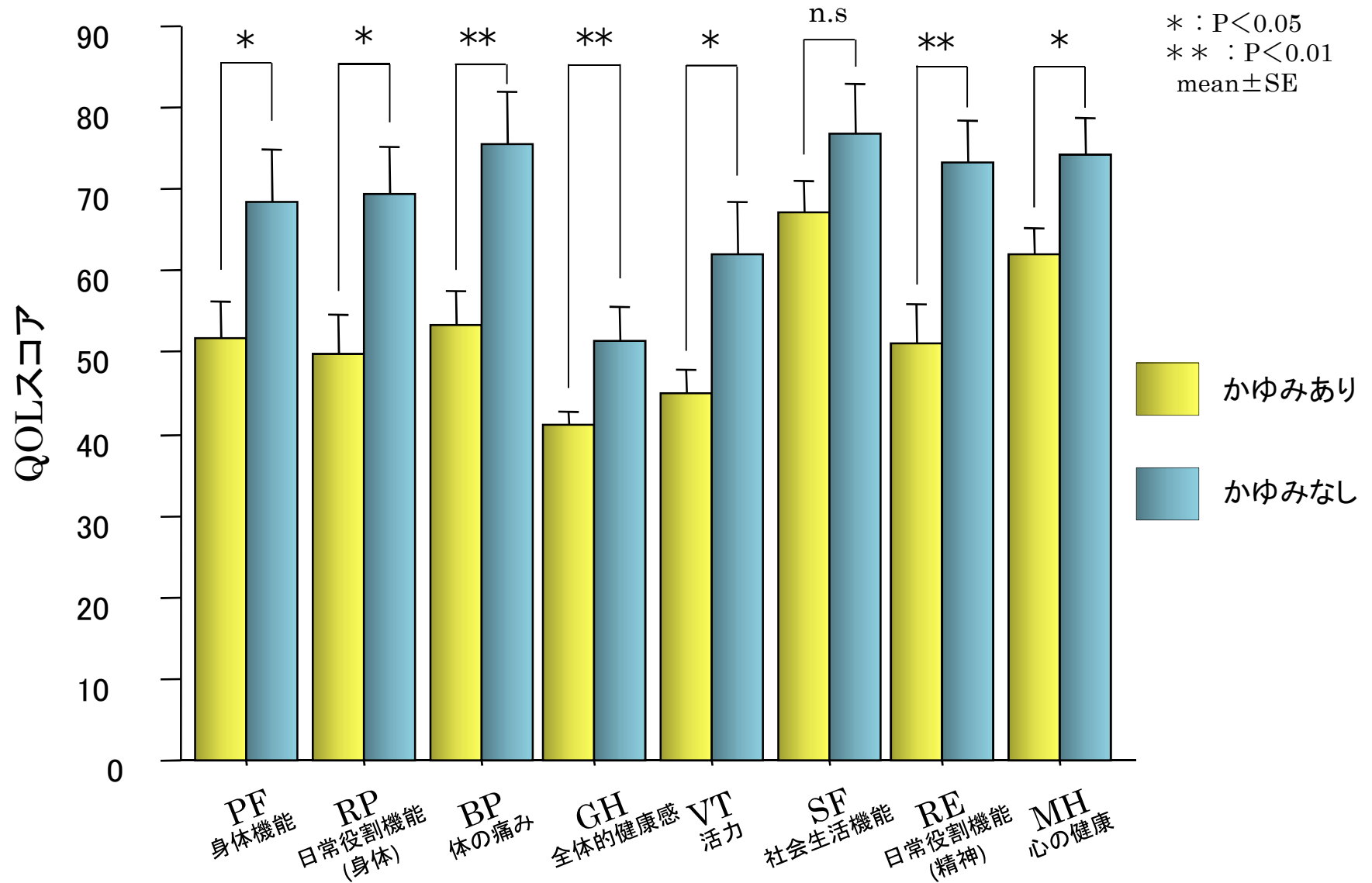


# SF-36 (MOS 36-Item Short-Form Health Survey ver.2)

□ 36項目から構成され、36項目は8つの下位尺度に分類される ➔ さらに □ スリーコンポーネントサマリースコア

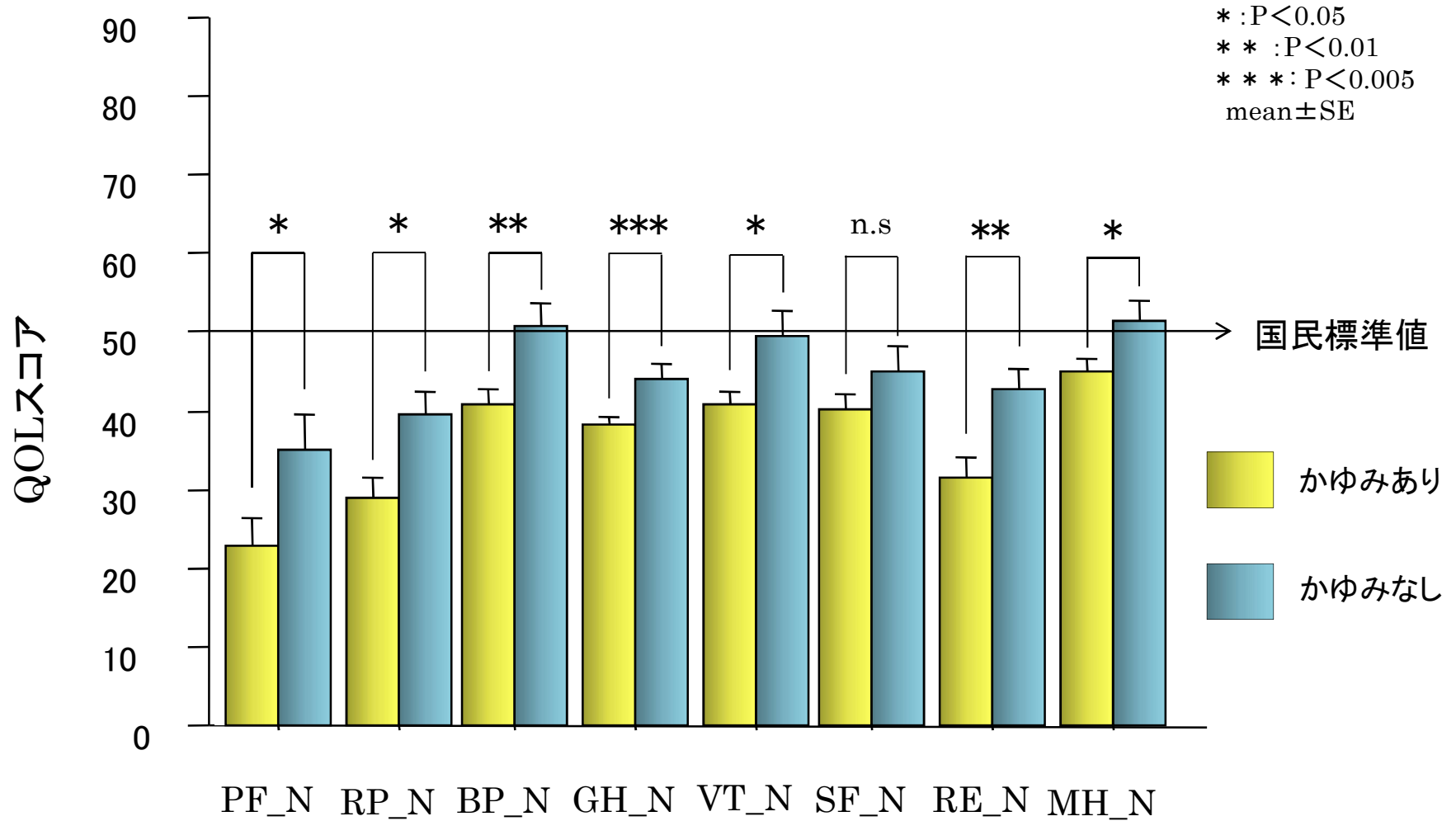


# 結果1



# 結果2

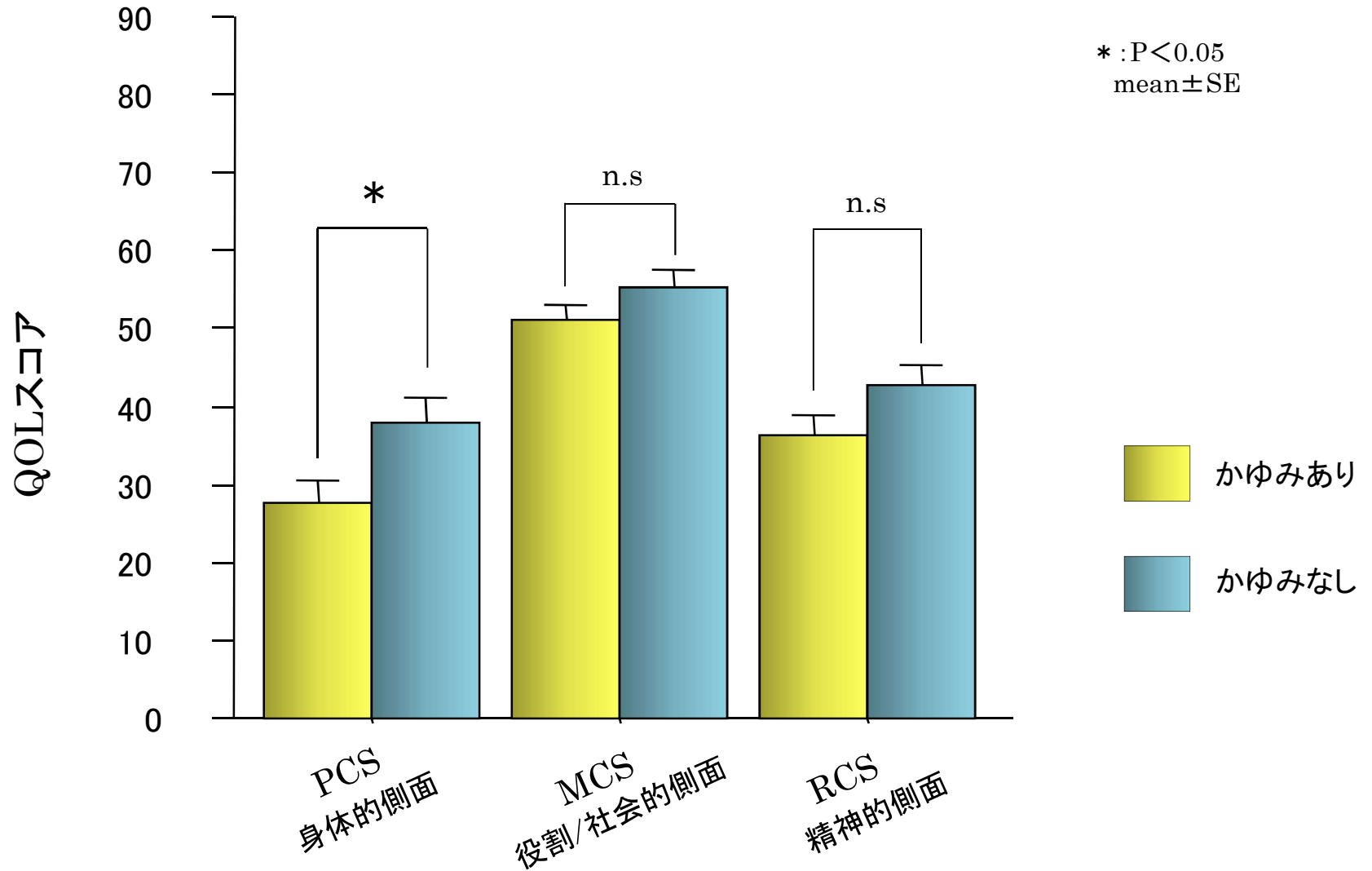
(国民標準値に基づくスコアリング)



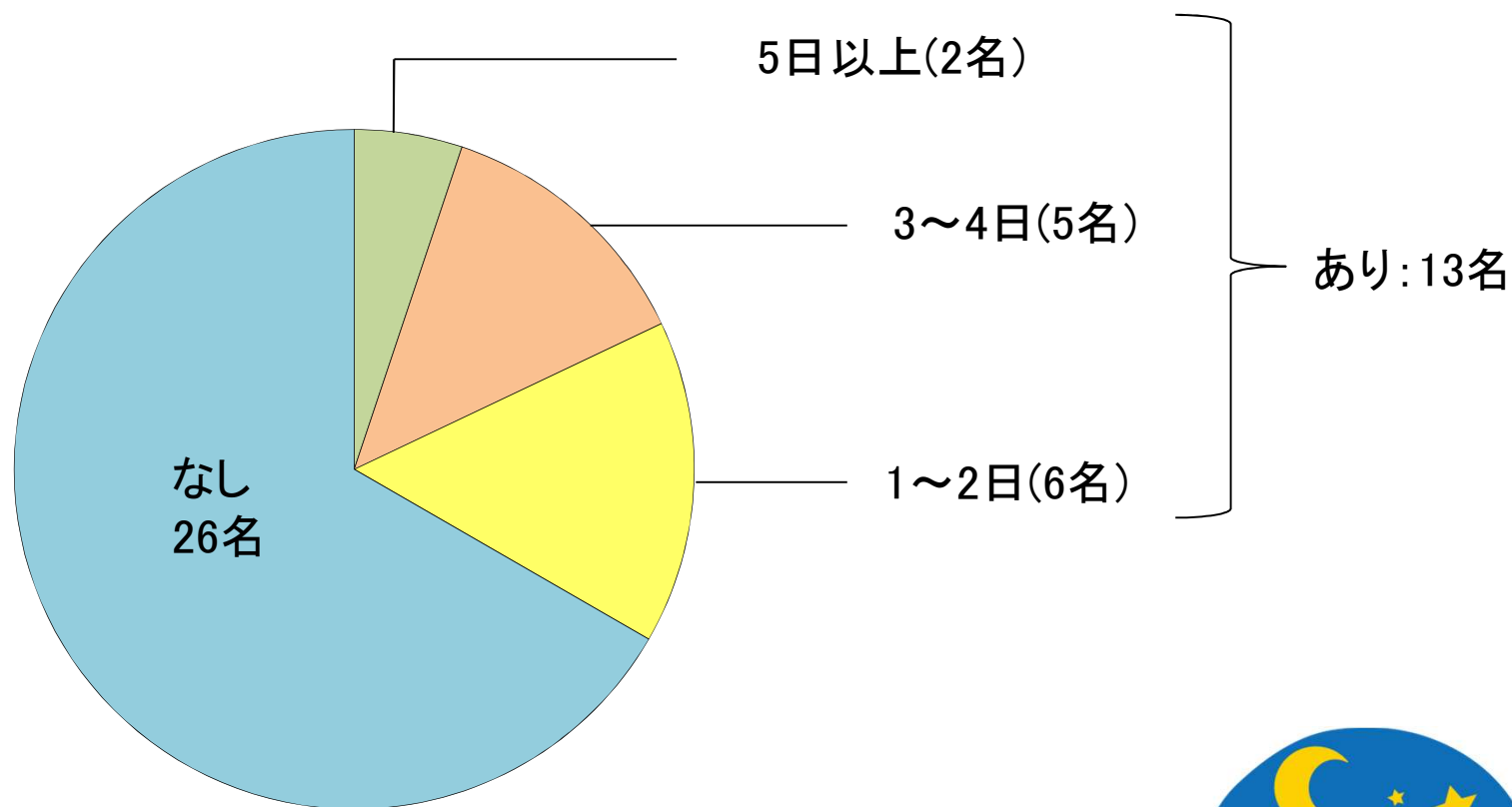


# 結果3

(スリーコンポーネントサマリースコアでの比較)



## Q: 1週間のうちどれくらいかゆみでの睡眠不足がありますか？



睡眠障害の割合: かゆみありの患者39名



# 夜間のかゆみスコアリング

## 〈そう痒の程度の判定基準(白取)〉

0: ほとんどあるいはまったくかゆみを感じない。

1: 就寝時わずかにかゆいが、特に意識して掻くほどでない。よく眠れる。

2: 多少かゆみはあるが、掻けばおさまる。かゆみのために目がさめることはない。

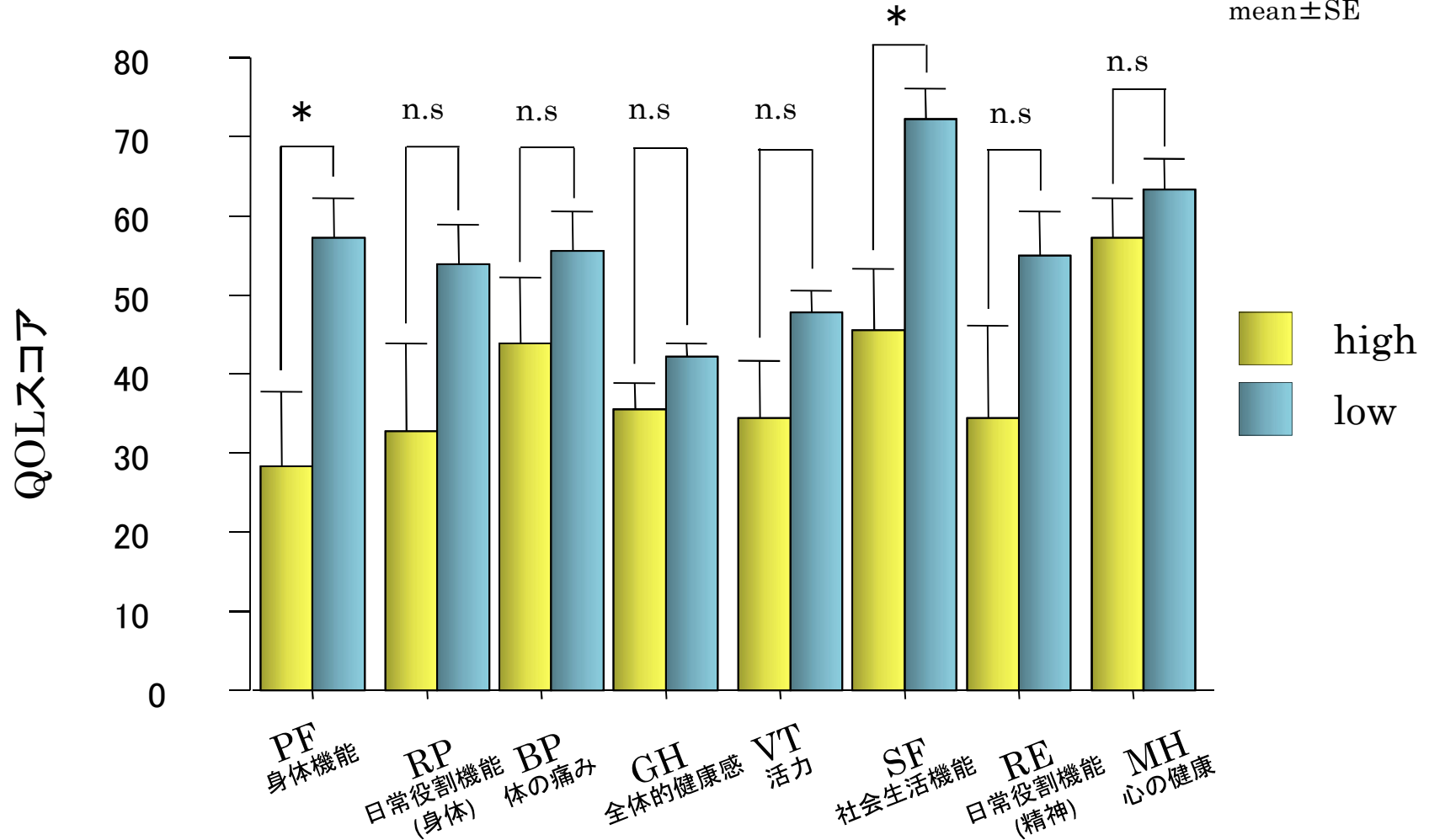
3: かゆくて目が覚める。ひと掻きすると一応眠るが、無意識のうちに眠りながら掻く。

4: かゆくてほとんど眠れず、しょっちゅう掻いているが、掻くとますますかゆみが強くなる。

# 結果4

(夜間の睡眠障害あり群内でのスコア別比較)

\* : P < 0.05  
mean ± SE



夜間の睡眠障害スコア low:0~2点 high:3~4点

## かゆみあり、なし2群間の臨床データ

検討項目	あり	なし	P値	有意差
年齢(歳)	68.5±10.6	67.0±9.6	0.4896	n.s
透析年数(年)	7.1±4.2	7.6±5.5	0.8688	n.s
補正Ca値(mg/dl)	9.0±0.5	9.0±0.5	0.9262	n.s
血清iP値(mg/dl)	4.9±1.1	4.8±0.9	0.6043	n.s
Ca × iP(mg/dl) <sup>2</sup>	44.1±9.6	42.9±8.6	0.5733	n.s
iPTH(pg/ml)	184.0±140.8	172.4±109.8	0.9044	n.s
ALB(g/dl)	3.8±0.4	3.9±0.3	0.3107	n.s
nPCR(g/kg/day)	0.8±0.2	0.8±0.1	0.5480	n.s
kt/v	1.4±0.2	1.5±0.2	0.0203	有り

# 考察

皮膚の乾燥

透析量不足による尿毒素の蓄積

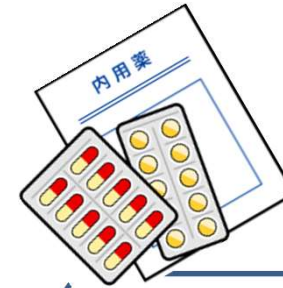
高リン、高カルシウム血症による皮膚の代謝不良

副甲状腺機能亢進によるPTHの過剰分泌

ダイアライザー、血液回路、穿刺針、絆創膏などによる刺激

使用薬剤によるアレルギー

その他疾患

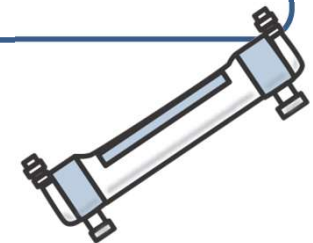


薬剤投与

適切な外用薬  
保湿剤の選択



透析条件の見直し



# 考察

---

透析患者のかゆみの原因は様々であり、個々の患者のかゆみのレベルに応じた対処法が要求される。そのため私たち医療スタッフは患者のかゆみの原因を観察し、正確に把握した上で適切な外用剤、保湿剤の選択及び効果的な塗り方の指導や、または薬剤投与における内服の確認、透析条件の変更、見直しなど患者のかゆみケアの確立と実践が望まれる。

# 考察

---

今回の結果からかゆみ、とりわけ夜間のかゆみが様々な尺度における透析患者のQOL低下に関与していることが示唆された。

また各種臨床データからは、かゆみあり群においてkt/vの低下が認められたことから、患者のかゆみケアを行うことの重要性を再認識し、透析効率の改善を含めた介入によってQOLの維持、向上に努めていく必要があると考える。



# 結語

---

SF-36v2による評価において、血液透析患者では、かゆみあり群がなし群に比べてQOLが低下していた。